ナンキンハゼ

にほんの
よみかた

なんきんはぜ

4

トウダイグサ科

名前のゆらい

ろうそくのしろいぶぶんがとれる中国からきたといういみでナンキンハゼとつけられた。

ナンキンハゼの見分け方

葉っぱは右のしゃしんのような形で，ほとんどの木は，しゃしんのように色が変わるためにさむさがひつようだけどあたたかくても色が変わる。

つかい道

- 石けんになる。
- ろうそくの元や，くすりでは，ひふのびょうきをなおすのに使われている。

そのほか

あぶらがおおい実だから冬のとりにとっておいしいごちそうのため，いろいろなとりがやってくる。

ナンキンハゼ

和名	南京櫨	4
別名	トウハゼ、カンテラギ	

分類				
	科（APG分類）	トウダイグサ科	属	ナンキンハゼ属
	科（旧分類）	トウダイグサ科	属	シラキ属
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・ハゼノキと同じように蝋（ロウ）が採取できる中国から来たという意味でナンキンハゼと命名された。
種子から蝋（ロウ)を採る有用樹として江戸時代に長崎から全国へ、『ハゼ』というが、ウルシ科のハゼノキとは別物であり、樹液に触れてもかぶれることはない。

樹木の特徴

・葉はひし形に近い卵型でポプラに似る。たいていの樹木は紅葉するためには寒さが必要だが、ナンキンハゼは暖地でもカラフルに紅葉するため、特に関西以西では珍重される。
・花期は5～7月で、黄色っぽい穂状の花には微香があり、昆虫がよく集まり蜂蜜をつくる蜜源となる。
・秋にできる果実は落葉後でもしばらく木の上に残る。果実は緑→黒い殻に覆われるが、寒くなると殻が割れてポップコーンのような白い種子が飛び出す。種子は有毒成分を含んで、触れるとかぶれ、誤飲すると嘔吐、下痢、腹痛を引き起こす。

用途・薬効

・よく紅葉することから庭木、街路樹、公園樹に利用される。
・種子の油脂分は、烏臼油（うきゅうゆ）と呼ばれ石鹸、ろうそくの原料や薬用では腫物、皮膚病の特効薬に利用されている。
・根皮、果実は乾燥して利尿剤として使われる。

その他

・非常に脂肪分が多いナンキンハゼの実、その脂肪分が冬の鳥たちにはたまらないごちそうのようでいろいろな鳥がやってきます。
キジバト、ムクドリ、ヒヨドリは飲み込んで食べます。カワラヒワは実の白い蝋分をくちばしで上手に取り除いて食べているようです。

作成年月日